

第27回 木材塗装基礎講座 注目をあびる「木材塗装」の世界

インテリアや家具などで天然木を使った製品が注目されるなか「木材塗装」への関心も高まっています。木材塗装のノウハウを伝える「木材塗装基礎講座」は 27 回目をむかえ、東京都立産業技術研究センター本部（テレコムセンター駅前）で開催されました。



▲ 主催は木材塗装研究会。
実行委員長をつとめる、西崎克治さん
(ニシザキ工芸)。今年は定員を上回る
応募者があったそうです。

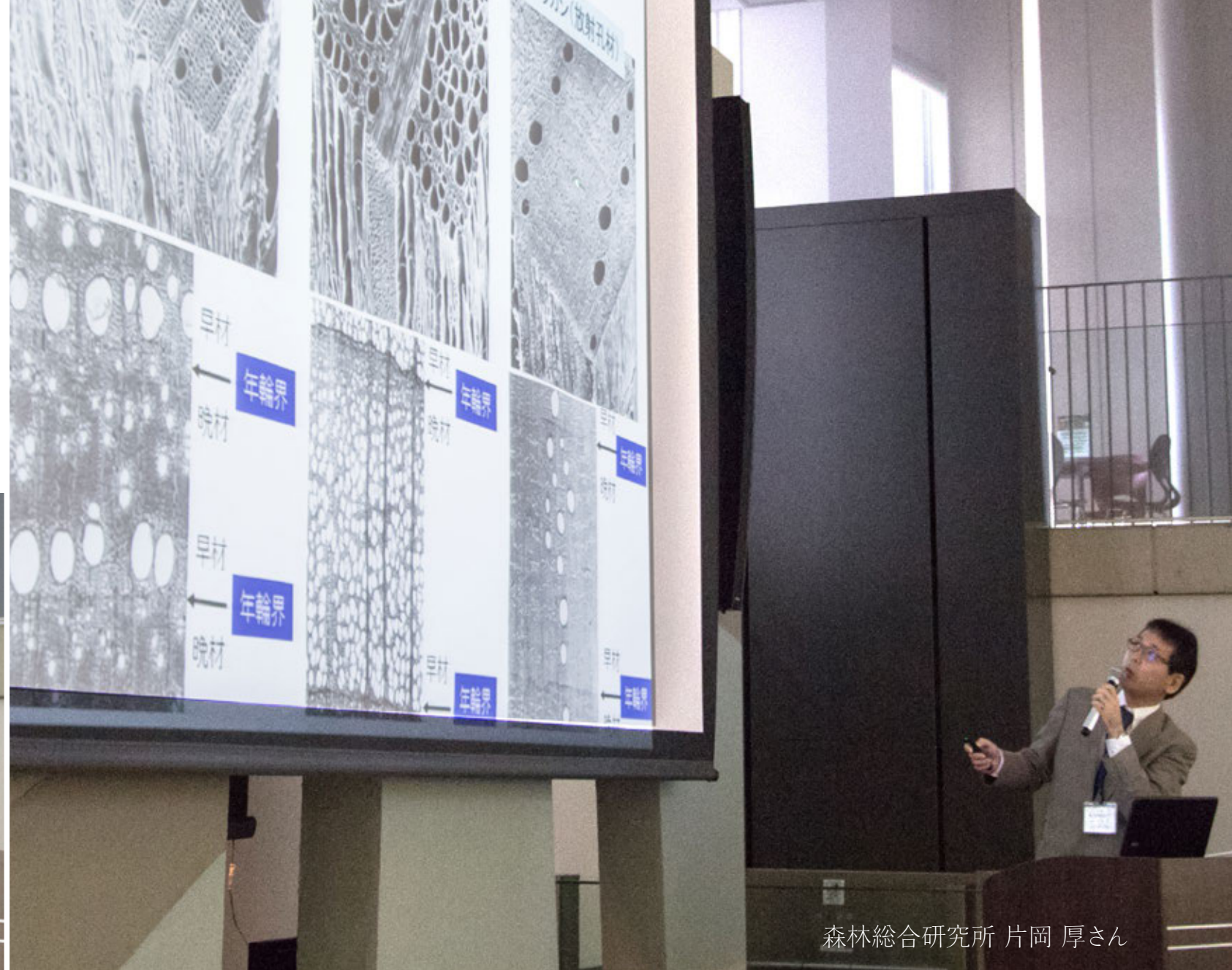
講座は朝 9 時半～午後 5 時まで、昼食を挟んで 8 時間近くにおよびました。今回は 6 つのテーマについて講演がおこなわれ、東京都立産業技術研究センターの見学会も行われました。

「木材の性質」をテーマにした森林総合研究所の片岡 厚さんは、最近注目されている木材の光環境についての研究を発表。木材を多用した内装は青味の強い光を吸収するため、温かみのある色合いのリラックスできる空間を作り出すそうです。

玄々化学工業の太田博成さんは、木材塗料の種類や性質、用途に合わせた選び方を、塗料の発展史や自然塗料の性質などとあわせて解説し好評でした。



玄々化学工業 太田博成さん



森林総合研究所 片岡 厚さん

木材塗装の基本工程



上塗り
補色
塗膜研磨
中塗り
下塗り
目止め
捨て塗り
素地着色
素地調整

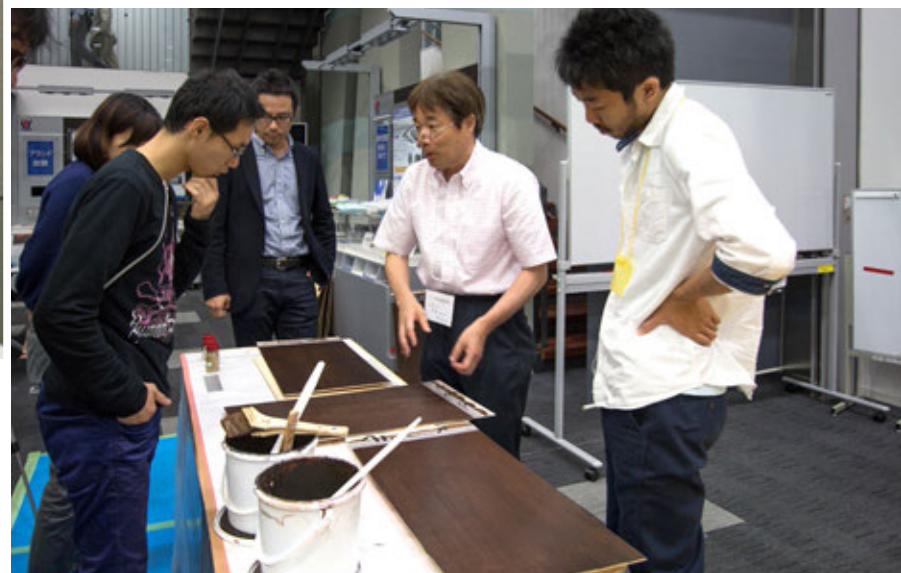
木材の種類
仕上のグレード
使用目的、コスト、納期
作業環境の条件などにより
工程数が変わる

東京都立産業技術研究センター 村井まどかさん

東京都立産業技術研究センター表面技術グループの村井まどかさんは、木地調整から仕上げまで塗装工程のポイントを解説しました。同じ塗料を使っても、塗り重ねる順番や塗り方で結果は大きく異なり「白ボケ」など日数が経ってから生じるトラブルもあるそうです。木材の性質、塗料の特性、塗装工程の組み方を学んだ所で、午前の部が終了しました。



講師たちに疑問点を直接聞けるのも、この講座の特徴です。塗装見本も展示され、注目を集めていました。





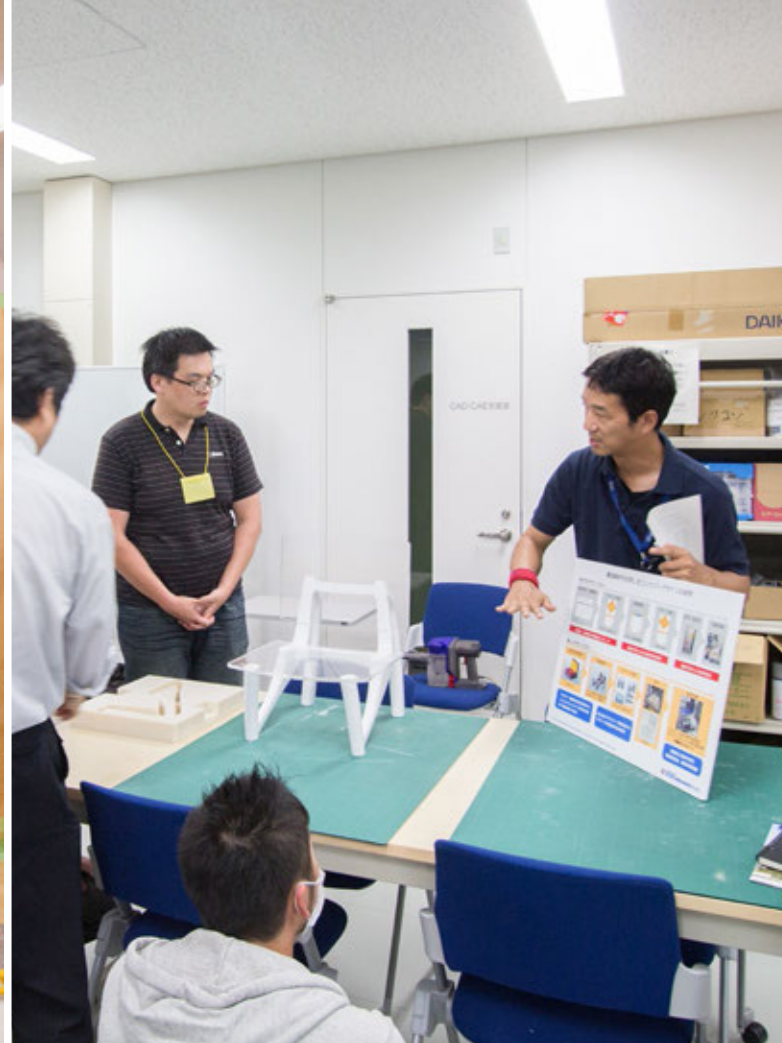
キャピタルペイント 長澤良一さんによる塗装の実演。広葉樹の中でも、環孔材（ナラ、アッシュなど）と散孔材（マホガニー、メイプルなど）では適切な塗料や塗装法が異なることを、参加者に刷毛塗りを体験してもらいながら解説してくれました。刷毛塗りや拭き取りのテクニックをスクリーンに投影し、会場全体で見られるよう工夫しています。



▲ セラックニスの原料となるラックカイガラムシの分泌物。

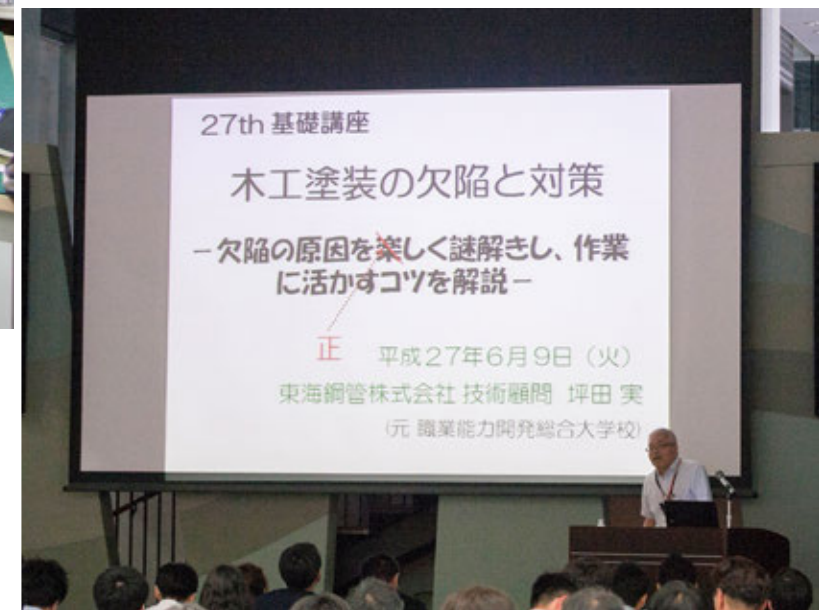


▲ 各講演のポイントをまとめた詳しいテキストを配布。



▲ 大阪ガスケミカル・小林勝志さん。

▼ 東海鋼管・坪田 実さん。



大阪ガスケミカルの小林勝志さんは、屋外の木部を保護する木材保護塗料を解説。東海鋼管の坪田 実さんは木材塗装の欠陥が生じる原因と、その対策を紹介。次に東京都立産業技術研究センターの施設をめぐり、塗装ロボットの活躍する塗装実験室や構造解析を利用した新しいデザインプロセスなどを見学しました。最後の「なんでも質問コーナー」では参加者から講演者へ真剣な質問が寄せられ、実際の仕事のなかで木材塗装の大切さが増していることを感じさせました。